

## <水球陣>関東学生リーグ第3戦

### H25.6.2 対慶應義塾大 @早稲田大学 所沢プール

東大 0 1 0 2 計3  
慶應 4 5 5 4 計18 4ピリオド目コールド

得点者：浪間(2)、大脇(1)

夏リーグ第三戦目慶應義塾大学戦。実力は相手のほうが上だと思われるが、上位リーグ進出を目指して試合に臨む。

#### 第1ピリオド

東大は浪間を中に置く布陣で攻めを組み立てようとするが、外周であまりパスが回らず、中にパスを通すことができない状況が続く。すると、パスカットから慶應のカウンターを受け、失点を許す。東大はこのパターンを繰り返し、結果このピリオド4失点、攻めでもいいところがなくこのピリオドを終える。

#### 第2ピリオド

うまく攻めることができず、カウンターで失点してしまった第一ピリオド。その反省を生かして試合を進めたい東大であったが、このピリオドも第一ピリオドと全く同じ流れになってしまう。時々パスがつながりフローター浪間にボールが入ることがあっても、慶應の中への下がりが高く、決定的なシュートが打てない。カウンターで3失点を許し、ここまで無得点であった東大だが浪間がトップの位置からカウンターをだしシュートを決めこの試合初得点。しかし流れは依然変わらず慶應がさらに2点を追加してこのピリオド5-1で終える。

#### 第3ピリオド

前半の悪い流れを断ち切りたい東大であったが、流れを変えることができない。Aサイドにボールを回すも、Aサイドからボールが出ず、そのままとられてカウンターをくらうという形で失点を続けこのピリオドを5-0で終える。

#### 第4ピリオド

ここまで全くいいところなしで迎えた第4ピリオド、この試合に勝つのはすでに不可能であるが、このピリオドだけでも勝とうと気合を入れ直す。東大は攻めの形がなかなか作れないが浪間が居残りからシュートを決める。さらに大脇がカウンターを出し池亀からのロングパスを意地で叩き込むも、この後4失点を許しコールド負けとなってしまった。

素直に実力差が出た試合となってしまった。泳力差もあったが、ボール扱いの差、ボールをもらう前の動きなど、すべての面で負けていたように思われる。基礎が全くできていないので、このような状況が続けば、実力が上の相手には同様の試合になることが想像される。早急に課題を克服して続くリーグ戦に臨みたい。最後になりましたが、忙しい中試合に駆けつけてくださった林裕三さん、堀江さん、有吉さん、監督をしてくださった田丸さん、ありがとうございました。

(文責 梶原健太)